

## パナソニックの NPO組織基盤強化支援

<http://panasonic.co.jp/citizenship/pnsf/>

社会課題の解決に取り組む市民活動が持続的に発展していくためには、NPOの基盤強化が必要との考えのもと、2001年に「Panasonic NPOサポート フォンド」を創設。NPOの事業活動への助成ではなく、組織基盤強化への助成に絞った、珍しい助成プログラムである。

パナソニックでは「NPOサポートファンド」の他、NPOがマーケティングを体得し、マーケティング力向上により支援者・事業拡大を支援する「Panasonic NPOサポート マーケティングプログラム」も実施。組織基盤強化に特化したNPO支援を展開している。



# 休刊の危機！日本で唯一の不登校・ひきこもり専門紙『Fonte』 元読者との対話深め、発行部数倍増へ

NPO法人 全国不登校新聞社

15年前、日本で唯一の不登校・ひきこもり専門紙として創刊された『Fonte』が昨年4月、休刊予告を出すまでの経営危機に陥った。9月までに300部増やさなければ休刊は免れない

というピンチを、組織基盤強化に取り組んだ3年間をベースに、マーケティングの手法も取り入れて、どう乗り切ったのか、話を聞いた。



編集スタッフ  
小熊 広宣さん

編集長  
石井 志昂さん

顧客管理担当  
茂手木 涼岳さん

手前にあるのは『Fonte』紙

## 98年、中学生の自殺を機に創刊、 当初6000部を発行

創刊のきっかけは1997年8月31日、ある中学生が図った焼身自殺だった。同日、別の場所では、中学生が学校の体育館に放火する事件が起きる。その日は夏休み最後の日、どちらも翌日から学校へ行くことに悩んだ末の悲劇だった。

このように「学校に行くか、死ぬか」の二者択一に陥っている子どもたちに、「学校に行かなくても他の選択肢がある」「死ななくていい」というメッセージを届けるために、不登校の子どもをもつ全国の親の会「登校拒否を考える

全国ネットワーク」の世話人らが中心となって「NPO法人全国不登校新聞社」を設立、98年5月1日、『不登校新聞』を創刊した。

創刊号のトップニュースは、父親が息子の不登校を悩み金属バットで殺害した事件。何がそこまで父親を追い詰めたのかに迫った記事だった。月2回発行の『不登校新聞』は「全国初の不登校・ひきこもりの専門紙」として注目を集め、当初の購読部数は6000部にのぼった。

04年にラテン語で「源流」を意味する『Fonte』と改名した後も、「当事者目線」を第一に掲げた記事を掲載し続けてきた。

現在編集長の石井志昂さんも、かつては

不登校の当事者だった。16歳の時、創刊号で当事者の一人としてインタビューを受けたことがきっかけで、編集部につながった。「創刊からまもなく、不登校・ひきこもりの子どもたちが企画を立てて取材して執筆する『子ども若者編集部』がつけられ、その1期生として登録しました」

最近では、大津いじめ自殺事件を受けて子どもたちが書いた『死にたい君へ』と題する記事や、当事者がひきこもっていた時の心境や脱出の経緯を告白する体験手記などに大きな反響があったという。

有給スタッフは石井さん、フリースクールでのボランティアを経て編集部員となった